

製品名: α -チューブリン (アセチル Lys40) (4A8) マウスモノクローナル抗体

カタログ番号: AMM06270

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス、その他
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	TUBA1B
別名	Tubulin alpha-1B chain (Alpha-tubulin ubiquitous) (Tubulin K-alpha-1) (Tubulin alpha-ubiquitous chain)
遺伝子 ID	7277.0
SwissProt ID	P68363
免疫原	α -チューブリンの合成ペプチド (アセチル Lys40)

背景

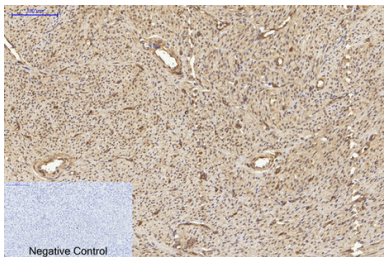
機能: チューブリンは微小管の主成分です。2 モルの GTP を結合します。1 つは β 鎖の交換可能部位、もう 1 つは α 鎖の非交換性部

位です。PTM: チューブリンチロシンカルボキシペプチダーゼ (TTCP) とチューブリンチロシンリガーゼ (TTL) という酵素によって、C末端チロシン残基が周期的に除去され、再び付加されるチロシン化/脱チロシン化サイクルを受けます。類似性: チューブリンファミリーに属します。サブユニット: α 鎖と β 鎖の二量体。機能: チューブリンは微小管の主成分です。これは2モルのGTPに結合します。1つはベータ鎖の交換可能な部位に、もう1つはアルファ鎖の交換不可能な部位にあります。PTM: チューブリンチロシンカルボキシペプチダーゼ (TTCP) とチューブリンチロシンリガーゼ (TTL) という酵素によって、C末端チロシン残基が周期的に除去され、再び付加されるチロシン化/脱チロシン化サイクルが行われます。類似性: チューブリンファミリーに属します。サブユニット: アルファ鎖とベータ鎖の二量体。

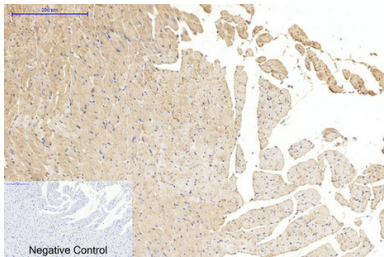
研究分野

ギャップジャンクション;病原性大腸菌感染症;

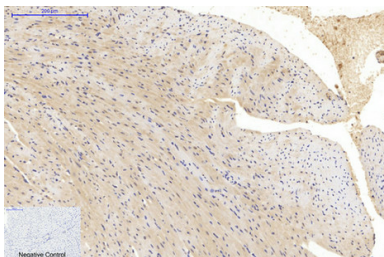
画像データ



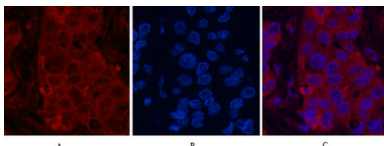
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



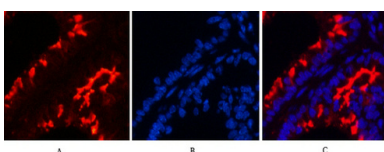
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



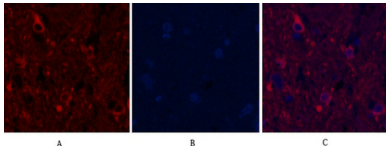
パラフィン包埋マウス心臓組織の免疫組織化学染色。1. α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



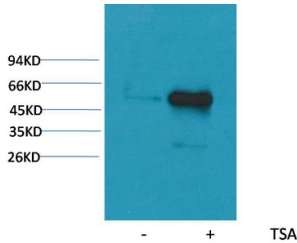
ヒト肝癌組織の免疫蛍光染色。1. α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) (赤) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. Cy3 標識二次抗体を1:300に希釈 (室温、50分)。3. 図B: DAPI (青) 10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



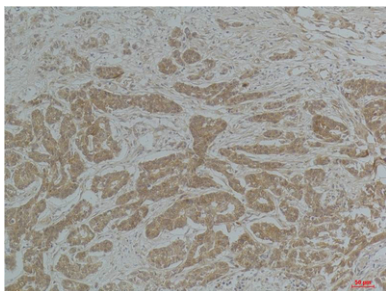
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1. α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) (赤) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. Cy3 標識二次抗体を1:300に希釈 (室温、50分)。3. 図B: DAPI (青) 10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



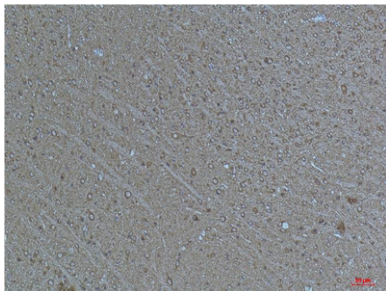
ラット脊髄組織の免疫蛍光染色。1, α -チューブリン (アセチル Lys40) モノクローナル抗体 (4A8) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



アセチル- α -チューブリン (Lys40) マウス mAb 1:2000 を使用した、未処理 (-) または TSA 処理 (1 μ M、18 時間; +) の HeLa 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。



1:200 に希釈した α -チューブリン (アセチル Lys40) マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した α -チューブリン (アセチル Lys40) マウス mAb を使用したパラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。